

第2次おおい町未来創生戦略 事業内部評価シート

整理番号	3-①	課名	まちづくり課
戦略分類	3. 若者活力		
取組の方向	多角的な若者視点による活力創生		
戦略事業名	①おおい若者まちづくり塾開催事業		
予算事業名	おおい若者まちづくり塾開催事業		
令和3年度実績額	1,042,254円	令和4年度予算額(6月補正後)	2,652,000円
事業の概要(実績)	令和2年度	令和3年度	令和4年度(予定)
	<p>まちづくりに興味のある住民を募り、テーマごとに議論を重ねることで、まちづくりについての意識を深めるとともに時代を担うリーダー意識を醸成する。</p> <p>「おおいまちづくり塾」を2回開催 【第1回】参加9名 講師: 田中志敬氏(福井大学) タイトル: まちづくりをはじめための集落課題チェック</p> <p>【第2回】参加12名 講師: 江川誠一氏(福井大学) タイトル: 身近な地域資源を活かしたまちづくりの進め方</p>	<p>潜在的にまちづくりに興味のある人材を発掘するため、「まちづくり塾講演会」の開催を企画。 ※新型コロナウイルス感染症の拡大により募集途中で中止(26名申込)</p> <p>⇒講演会の申込者や未来仕掛け人OBの紹介者により未来仕掛け人2期生(仮称)を設立 ※現在10名のメンバーが在籍</p> <p>《メンバーの活動》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕掛け人OBとの意見交換会 ・高濱明日研究所とのオンライン交流会 ・メンバー会議 2回 	<p>未来仕掛け人2期生を中心とし、会議やワークショップ等を通じて、若者のアイデアを活かしたまちづくりプロジェクトの企画・運営を目指す。</p>
			

評価(Check)						
成果を測る指標(KPI・数値目標)	参加者数		⇒	現 状		KPI達成率(%)
	基準値(平成30年度)	累計472人		令和3年度末	累計654人	81.8
	目標値(令和6年度末)	累計800人				
① 数値目標達成状況						おおむね達成
達成状況の要因分析	KPIについて、おおい町未来仕掛け人会議や、まちづくり塾に関連した講演会等を実施し、まちづくりに関わった住民の数を増やしてきたことから、目標値をおおむね達成している状況である。					
新たな目標の考え方	—					

② 事業に取り組んだことで得られたノウハウや今後の方針(成果又は反省から得られた情報や知識など)	
ノウハウの内容・目標達成に向けた今後の活用方針	<p>結果的には中止となったが、まちづくり塾講演会の開催を企画したことにより、潜在的にまちづくりに興味をもつ町内の若者たちを発掘することができた。</p> <p>今後は、当事業に参加している未来仕掛け人2期生をコアメンバーとした、まちづくりプロジェクトの企画・運営をすすめていくとともに、メンバーからの推薦や公募により、プロジェクトに賛同してくれる多くの住民を巻き込み、活動人口の拡大を目指す。</p>
③ 前年度の内部評価・外部評価の事業への反映	
<p>事業への参加人数を増やしてだけでなく、参加メンバーのまちづくりに対する自主性、主体性を育むことを目的に、町内のまちづくり団体OBや現在活動中の近隣市町との交流会を開催し、メンバーの気運醸成を図った。</p>	
④ 事業成果	
<p>平成27年から令和元年度にかけて若者ワークショップや未来仕掛け人会議、部会、まちづくり塾を実施し、延べ数598人のまちづくりに意欲のある町民が参加した。また、未来仕掛け人会議のメンバーは、今まで培ってきたノウハウを活かし、参加者が1,000人規模のイベントとなったおおいCraftGardenのように町の補助金を活用しながら、イベントを企画・運営し、関係人口の創出と町の活性化に寄与している。</p> <p>また、事業への参加者が固定化されてきたことから、令和2・3年度はまちづくり講演会等の開催により、潜在的にまちづくりに対して興味をもつ人材を新たに発掘し、まちづくり活動への参加に繋げることができている。</p>	
内部評価結果	
<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年までのおおい町未来仕掛け人会議や、令和2年度からのまちづくり塾の活動を通じて、まちづくりに関わった住民の数は増えており、KPIの達成に向けて順調 ・今後は、更なるメンバーの発掘や自主的・主体的に活動を行ってもらうための機運の醸成が重要 	

第2次おい町未来創生戦略 事業内部評価シート

整理番号	3-②	課名	まちづくり課
------	-----	----	--------

戦略分類	3. 若者活力		
取組の方向	多角的な若者視点による活力創生		
戦略事業名	②まちづくり政策コンテスト開催事業		
予算事業名	官学連携事業		
令和3年度実績額	3,962,406円	令和4年度予算額(6月補正後)	4,394,000円

	令和2年度	令和3年度	令和4年度(予定)
事業の概要(実績)	<p>新型コロナウイルス感染症拡大等の社会情勢を考慮し、令和2年度は中止とした。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症対策のため、リモートを基本に実施し、県内や関西の5大学7チームから提言が発表された。 発表された政策提言の中で、令和3年度に事業化に至ったものはないが、施策への活用検討を継続していく。</p>	<p>令和4年度は11月頃のコンテスト開催を目指し学生チームの募集を実施。 3年ぶりにフィールドワークを予定しており、学生や指導教員の方の関心も高く、11チームから応募が寄せられている。</p>



評価(Check)

成果を測る指標(KPI・数値目標)	政策提案数			現 状		KPI達成率(%)
	基準値(平成30年度)	累計26件		令和3年度末	累計41件	
	目標値(令和6年度末)	累計70件	⇒			58.6

① 数値目標達成状況 おおむね達成

達成状況の要因分析	<p>目標値の達成には、令和3年度末までに累計約50件の提言を得る必要があった。コンテストはリモート開催であったものの7チームの参加があり、累計41件(達成率8割)となっており、学生や指導教員の方の高い関心が伺える。 今後は、提言数ではなく、この事業にかかる交流機会の創出や事業化数にも焦点をあてていくべきかと考える。</p>
新たな目標の考え方	—

② 事業に取り組んだことで得られたノウハウや今後の方針(成果又は反省から得られた情報や知識など)	
ノウハウの内容・目標達成に向けた今後の活用方針	<p>学生のアイデアの実行役となる団体等がないと、継続的な事業化へのハードルが高くなる。また令和4年度は、3年ぶりに学生に来町してもらう機会となるため、交流人口の拡大につながる仕掛けが必要。</p> <p>令和4年度の実施にあたっては実行可能性を重視し、町内の協力団体や事業化に向けたスケジュールなども併せて提示してもらうこととしたい。</p>
③ 前年度の内部評価・外部評価の事業への反映	
<p>事業化の成果については、広報誌やHPなどの媒体を活用して周知していく。</p> <p>また、外部評価での学生と直接交流する機会も検討してもらいたいとの意見を受けて、コンテスト自体はリモートで実施したものの、比較的コロナウィルス感染症状況が落ち着いていた時期に、学生を招いた表賞式および、町長と学生の意見交換会を開催した。</p>	
④ 事業成果	
<p>平成28年度から5回のコンテストを開催し、参加した学生は延べ約270名となっており、未来創生戦略にもとづいた町づくりを進める本町の取り組みを広く町内外にPRする機会となっている。</p> <p>また、学生、町内住民グループ合わせて41件の政策提言が集まり、その中から7件が事業化につながっており、様々な視点から寄せられるアイデアが町の施策の多様化に寄与している。</p>	
内部評価結果	
<p>令和3年度末までに達成すべき提言数は累計約50件のところ、令和3年度はリモートにも関わらず7チームがコンテストに参加し、提案の累計41件(達成率8割)となっており注目度が高い施策と考えられる。今後は、提言数だけでなく、交流機会の創出や事業化にも焦点をあてていくことが重要</p>	

第2次おい町未来創生戦略 事業内部評価シート

整理番号	3-③	課名	まちづくり課
------	-----	----	--------

戦略分類	3. 若者活力		
取組の方向	多角的な若者視点による活力創生		
戦略事業名	③地域おこし協力隊支援事業		
予算事業名	地域おこし協力隊募集・管理事業		
令和3年度実績額	532,100円	令和4年度予算額(6月補正後)	909,000円

	令和2年度	令和3年度	令和4年度(予定)
事業の概要(実績)	<p>人口減少及び高齢化等が進行する本町において、町外の人材を地域おこし協力隊という形で積極的に取り込み、地域の活性化および定着・定住を図るため、協力隊募集イベントへの参加や、県等が主催する隊員向け研修会へ参加するための旅費を支給したほか、定住した隊員に報奨金を支給。</p> <p>令和2年度中に1名が新たに着任し、また、年度末に1名が期間満了で退任し、本町に定住している。</p>	<p>令和2年度末に1名が退任し、令和3年度当初の在籍者は2名となった。令和3年度には新たに2名の隊員の募集を開始したほか、1名が期間満了で退任し、本町に定住した。</p> <p>※年度末の在籍者1名</p>	<p>引き続き2名の隊員を募集しており、HPや募集専用サイト、イベント等で周知を図っている、今年度中の2名の着任を目指したい。</p>



評価(Check)

成果を測る指標(KPI・数値目標)	協力隊退任後の定住人数		現 状	KPI達成率(%)
	基準値 (平成30年度)	累計0人		
	目標値 (令和6年度末)	累計6人	⇒ 令和3年度末	累計4人 66.7

① 数値目標達成状況 おおむね達成

達成状況の要因分析	<p>平成27年度から10名の地域おこし協力隊員が着任のうち4名の定住につながっている。目標達成に向け順調に推移しているが、本人の希望と実際の業務とのミスマッチ、家庭の事業、自己の都合等の理由で5名が定着せずに退任している。</p> <p>新たに隊員を募集する場合は、採用条件や活動内容をできる限り詳細に明示し、採用後のミスマッチがおこらないように努めている他、定期的に面談して情報共有につとめ隊員が地域で孤立しないように努めている。</p>
新たな目標の考え方	—

② 事業に取り組んだことで得られたノウハウや今後の方針(成果又は反省から得られた情報や知識など)	
ノウハウの内容・目標達成に向けた今後の活用方針	全国の自治体が地域おこし協力隊員を募集している中で、多数の応募が寄せられる自治体と、そうでない自治体の2極化が進んでいる。 より魅力的な募集となるように募集内容の検討を行っていく。
③ 前年度の内部評価・外部評価の事業への反映	
新型コロナウイルス感染症拡大により、令和2年度～令和3年度は県内外のイベント等が減少している中で、継続的に業務に携わってもらえる形を検討し募集を行っている。	
④ 事業成果	
平成27年度から延べ10名の地域おこし協力隊員を受け入れており、実際の業務とのミスマッチ、家庭の事情、自己の都合等の理由で、任期途中で退任された方がいるものの、令和3年度末時点で4名の方の定着につながっている。 引き続き人材の確保を図り、地域の活性化につながるよう努める。	
内部評価結果	
令和2年度から毎年度、任期満了した隊員が定着しており、定着率は高くKPIの達成に向けて順調と考える。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、令和2年度～令和3年度は町内外のイベント等が減少しており、そういった状況に左右されない業務の確保など、受け入れる側の準備が重要	

第2次おい町未来創生戦略 事業内部評価シート

整理番号	3-④	課名	まちづくり課
------	-----	----	--------

戦略分類	3. 若者活力		
取組の方向	本町の特性を活かした体験・交流の充実		
戦略事業名	④ふるさと体験事業		
予算事業名	移住・定住・交流推進事業(ふるさと体験事業)		
令和3年度実績額	38,250円	令和4年度予算額(6月補正後)	500,000円

	令和2年度	令和3年度	令和4年度(予定)
事業の概要(実績)	<p>おい町に関心を持つ町外の方(おいサポーターの登録者)が本町で行う以下の活動に伴う交通費相当額を補助</p> <p>①町内で住居を兼ねた仕事場探し ②町が指定するイベントのボランティア運営スタッフとしての活動 ③おい町一次産業体験事業への参加 ④包括連携協定を締結している大学の学生が行う、町民との交流を伴う活動</p> <p>令和2年度実績 5件/18名</p>	<p>おい町に関心を持つ町外の方(おいサポーターの登録者)が本町で行う以下の活動に伴う交通費相当額を補助</p> <p>①町内での住居を兼ねた仕事場探し ②町が指定するイベントのボランティア運営スタッフとしての活動 ③おい町一次産業体験事業への参加 ④包括連携協定を締結している大学の学生が行う、町民との交流を伴う活動</p> <p>令和3年度実績 2件/9名</p>	<p>引き続き、おい町に関心を持つ町外の方が本町で行う活動等に係る交通費相当額の補助を実施する。</p> <p><上限額> 北海道・東北 19,000円/人 関東 13,000円/人 中部・近畿 5,000円/人 中国・四国 10,000円/人 九州 17,000円/人</p>
			

評価(Check)						
成果を測る指標(KPI・数値目標)	おいサポーター登録者数		⇒	現 状		KPI達成率(%)
	基準値 (平成30年度)	—		令和3年度末	79	15.8
	目標値 (令和6年度末)	500人				

① 数値目標達成状況		見直しが必要
達成状況の要因分析	令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、1次産業体験活動の参加者が減少しており、結果として、サポーター登録を呼びかける機会が少なく目標の達成状況が厳しい状況である。	
新たな目標の考え方	令和6年度までに毎年度100名程度の登録を目標としているが、令和2年度と令和3年度は、コロナ感染症拡大で体験事業等の利用人数が極端に少なかったため、その影響を考慮して目標値を300名(△200名)としたい。	

② 事業に取り組んだことで得られたノウハウや今後の方針(成果又は反省から得られた情報や知識など)

ノウハウの内容・目標達成に向けた今後の活用方針

当事業については、関西圏の学生のフィールドワークや研究活動での利用も多く、おい町を知らない都市部の若年層へのPR効果が期待できる。
今後、おい町の情報を積極的に登録者に発信していくことにより、移住やふるさと納税に繋がっていくことが期待できるため、当制度の利用者だけでなく、まちづくり政策コンテストの参加者やおい町と連携した取り組みを行っている大学等に、来町および制度の積極的な活用をPRしていく。

③ 前年度の内部評価・外部評価の事業への反映

新型コロナウイルス感染症の拡大により新規サポーターの獲得が難しい状況をふまえ、登録済のサポーターに対するアンケートに制作したおい町のPR動画を掲載するなど、既存サポーターへの情報提供を強化した。

④ 事業成果

おい町に関心を持つ町外の方や包括連携協定を締結している大学の学生が、町内で行う1次産業体験や交流活動などについて、R3年度は2件9名に補助を行いサポーター登録に寄与した。

内部評価結果

- ・サポーター登録に寄与してきた1次産業体験事業や大学との交流活動が、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で減少しており、その影響で実績が目標値を下回っている
- ・KPIを見直すとともに、新型コロナウイルス感染症が終息したタイミングで、連携協定を締結している大学や、まちづくり政策コンテストの参加大学等に向けて制度をPRしていく必要がある

第2次おい町未来創生戦略 事業内部評価シート

整理番号	3-⑤	課名	農林水産課
-------------	-----	-----------	-------

戦略分類	3. 若者活力		
取組の方向	本町の特性を活かした体験・交流の充実		
戦略事業名	⑤一次産業体験事業		
予算事業名	一次産業スタート支援事業		
令和3年度実績額	3,466,614円	令和4年度予算額(6月補正後)	5,269,000円

	令和2年度	令和3年度	令和4年度(予定)
事業の概要(実績)	①一次産業活動拠点施設の管理(実績) 日常管理 1,795,200円 消防設備点検 36,520円 施設利用人数 延べ46人	①一次産業活動拠点施設の管理(実績) 日常管理 1,795,200円 消防設備点検 35,420円 施設利用人数 延べ49人	①一次産業活動拠点施設の管理 日常管理 1,795,200円 消防設備点検 35,420円
	②一次産業体験事業(実績) 5人(7日間) 35,000円	②一次産業体験事業(実績) 0円	②一次産業体験事業 120人/年間 600,000円
	③就農総合支援事業補助(実績) 新規就農者住宅確保支援事業補助金(1人) 270,000円 新規就農者研修支援事業補助金(1人) 480,000円	③就農総合支援事業補助(実績) 新規就農者住宅確保支援事業補助金(1人) 67,500円 新規就農者研修支援事業補助金 0円	③就農総合支援事業補助 新規就農者住宅確保支援事業補助金(1人) 318,000円 新規就農者研修支援事業補助金(2人) 720,000円



一次産業体験



一次産業活動拠点施設

評価(Check)

成果を測る指標(KPI・数値目標)	体験者数			現 状		KPI達成率(%)
	基準値(平成30年度)	年間延べ190人		令和3年度末	年間延べ49人	
	目標値(令和6年度末)	年間延べ200人	⇒			24.5%

① 数値目標達成状況 現状では達成が難しい

達成状況の要因分析	新型コロナウイルス感染症感染者拡大に伴う緊急事態宣言等により移動が制限されたことや、農業体験受入れ農家においても新型コロナウイルス感染症の影響を受けていることなどを考慮し、大学などを対象とする若年層に対するPR活動を行えなかったため目標達成は厳しい状況。令和6年度には状況が改善しているものと考え目標値は維持したい。
新たな目標の考え方	—

② 事業に取り組んだことで得られたノウハウや今後の方針(成果又は反省から得られた情報や知識など)

ノウハウの内容・目標達成に向けた今後の活用方針

コロナ禍以前に大学等を対象に行っていた若年層に対するPR活動を感染状況に応じ行うとともに、コロナ禍においてもSNS等を活用した農業体験受入農家の情報や新規就農に対する支援策など、さまざまな媒体で広く発信するとともに、アフターコロナに向け受入れ農家と連携し態勢を整える。

③ 前年度の内部評価・外部評価の事業への反映

昨年度の外部評価において指摘のあった高校生へのアピールについては、上記②のとおりアフターコロナに向け、例年、若狭高等学校が開催し参加している「地域の方から学ぼう」でのPRや、「まちづくり政策コンテスト」に参加いただいた大学など、若狭管内における農業系や水産系などの高等学校や大学の学部・学科とも連携を図っていく。

④ 事業成果

平成30年度から一次産業活動拠点施設の本格的な運営を開始し、新たな一次産業体験者を受け入れ新規就業者の獲得に繋げるため、関西圏の大学等へのPR活動を行っていたが、令和3年度においても新型コロナウイルス感染症の長期化による移動制限などにより、体験事業に影響がでた。

内部評価結果

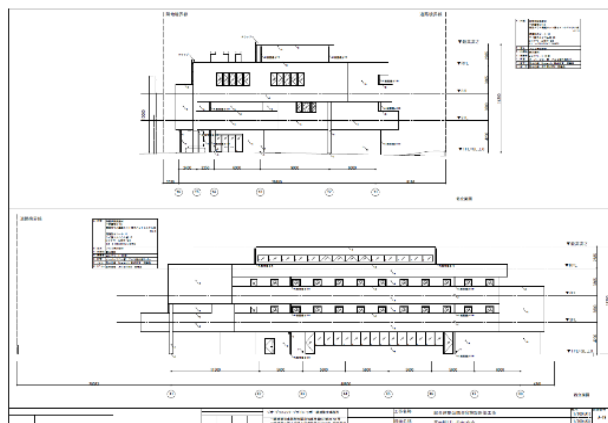
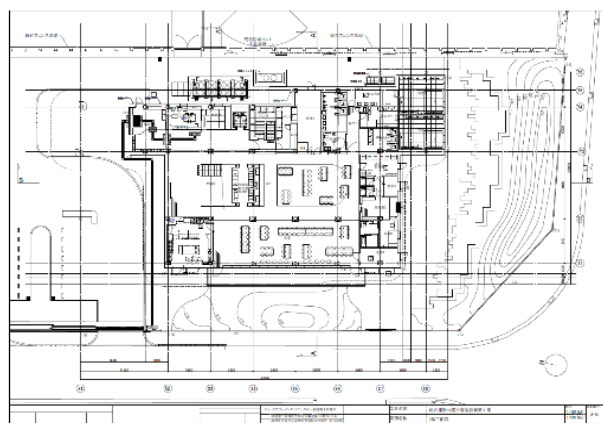
新型コロナウイルスの感染拡大の影響で参加者が減少しており、実績が目標値を下回っているが、令和4年度以降の状況改善を見据えてKPIは維持する。今後、アフターコロナに向けた受入れ体制を構築していくことが重要

第2次おおい町未来創生戦略 事業内部評価シート

整理番号	3-⑥	課名	社会教育課
------	-----	----	-------

戦略分類	3. 若者活力		
取組の方向	本町の特性を活かした体験・交流の充実		
戦略事業名	⑥スポーツ・教育合宿推進事業		
予算事業名	(臨時)総合運動公園管理運営事業		
令和3年度実績額	68,247,034円	令和4年度予算額(6月補正後)	13,350,000円

	令和2年度	令和3年度	令和4年度(予定)
事業の概要(実績)	<p>スポーツ・文化体験交流合宿施設の基本設計を行う業者を決定するため、指名型プロポーサル業者選定委員会を開催し、指名した8社のうち参加表明のあった4社から技術提案書の提出及びヒアリングを行った。</p> <p>選定委員会の審査の結果、最優秀者「ジオグラフィック・デザイン・ラボ(大阪市)」と基本設計契約を締結し、合宿施設の基本的方針等について設計を行った。</p>	<p>基本設計に基づき、建設予定地の測量、実施設計(地盤調査含む)を行った。</p> <p>実施設計では、合宿旅行取扱業者や京阪神の大学や高校にヒアリングを行い、繁忙期以外での合宿利用ができる施設のありかたを検討し、設計に反映させた。</p>	<p>令和5年度での、工事発注に向け設計内容の精査を行うと共に、利用者のニーズに対するマーケティングを行うなどし、年間を通した施設利用が図れるよう施設の運営方法について検討を行う。</p>



評価(Check)

成果を測る指標(KPI・数値目標)	合宿所利用者数			現 状		KPI達成率(%)
	基準値(平成30年度)	年間延べ5,592人		令和3年度末	1,109人	
	目標値(令和6年度末)	年間延べ8,000人	⇒			13.9

① 数値目標達成状況 現状では達成が難しい

達成状況の要因分析	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者の多数を占める近畿圏が緊急事態宣言区域やまん延防止等重点措置地域となり、スポーツ合宿が制限されたことから利用者の増加に繋がらなかったが、令和6年度には状況が改善しているものと考え目標値は維持したい。</p>
新たな目標の考え方	—

② 事業に取り組んだことで得られたノウハウや今後の方針(成果又は反省から得られた情報や知識など)

ノウハウの内容・目標達成に向けた今後の活用方針

合宿旅行取扱業者や京阪神の大学や高校にヒアリングを行い、繁忙期以外での合宿利用ができる施設のありかたを検討し、設計に入れ込むことができた。
施設の概要が決まったことから、今後、運営方法についての検討を行い年間を通した施設利用が図れるように計画を進めて行く。

③ 前年度の内部評価・外部評価の事業への反映

合宿旅行取扱業者や京阪神の大学や高校にヒアリングを行い、繁忙期以外での合宿利用ができる施設のありかたを検討し、設計に入れ込むことができた。

④ 事業成果

新型コロナウイルス感染症により、各施設では感染症対策が必須となっている。今後、ワクチン接種等により新型コロナウイルス感染症が下火となった時に、利用者の視点に立った安全・安心な施設として、合宿だけでなく新たな利用者呼び込むことができる施設として実施設計を進めることができた。

内部評価結果

新型コロナウイルス感染拡大の影響でスポーツ合宿が制限されたことから、実績が目標値を下回っているが、令和4年度以降の状況改善を見据えてKPIは維持する。アフターコロナに向けて、多くの利用者呼び込むための魅力的な施設を整備していくことが重要

第2次おい町未来創生戦略 事業内部評価シート

整理番号	3-⑥	課名	商工観光課
------	-----	----	-------

戦略分類	3. 若者活力		
取組の方向	本町の特性を活かした体験・交流の充実		
戦略事業名	⑥スポーツ・教育合宿推進事業		
予算事業名	観光振興対策事業(合宿補助)		
令和3年度実績額	592,500円	令和4年度予算額(6月補正後)	4,650,000円

	令和2年度	令和3年度	令和4年度(予定)
事業の概要(実績)	<p>将来の観光リピーターとなりうる若年層の誘致を進めるため、高等学校や大学等と連携して合宿の誘致を図るとともに、本町で行われる学生合宿に対して補助を行った。</p> <p>1. 補助内容</p> <p>(1) 県外団体 宿泊費:1,500円/人泊 地域交流費:250円/人</p> <p>(2) 県内団体 宿泊費:1,000円/人泊</p> <p>2. 利用実績</p> <p>(1) 県外団体 宿泊費:1,500円×493人泊 地域交流費:250円×93人</p> <p>(2) 県内団体 宿泊費:1,000円×78人泊</p>	<p>将来の観光リピーターとなりうる若年層の誘致を進めるため、高等学校や大学等と連携して合宿の誘致を図るとともに、本町で行われる学生合宿に対して補助を行った。</p> <p>1. 補助内容</p> <p>(1) 県外団体 宿泊費:1,500円/人泊 地域交流費:250円/人</p> <p>(2) 県内団体 宿泊費:1,000円/人泊</p> <p>2. 利用実績</p> <p>(1) 県外団体 宿泊費:1,500円×267人泊 地域交流費:250円×54人</p> <p>(2) 県内団体 宿泊費:1,000円×217人泊</p>	<p>引き続き、将来の観光リピーターとなりうる若年層の誘致を進めるため、高等学校や大学等と連携して合宿の誘致を図るとともに、本町で行われる学生合宿に対して補助を行う。</p> <p>1. 補助内容</p> <p>(1) 県外団体 宿泊費:1,500円/人泊 地域交流費:250円/人</p> <p>(2) 県内団体 宿泊費:1,000円/人泊</p> <p>2. 予算枠</p> <p>(1) 県外団体 宿泊費:1,500円×3,000人泊 地域交流費:250円×200人</p> <p>(2) 県内団体 宿泊費:1,000円×100人泊</p>



(PRチラシ)



(総合運動公園球技場)



(ホテル流星館)

評価(Check)

成果を測る指標(KPI・数値目標)	事業利用者数			現 状		KPI達成率(%)
	基準値(平成30年度)	年間延べ4,084人泊		令和3年度末	年間延べ 484人泊	
	目標値(令和6年度末)	年間延べ5,500人泊	⇒			8.8

① 数値目標達成状況 現状では達成が難しい

達成状況の要因分析	<p>令和3年度においては、数値目標である年間の事業利用者数が、前年度実績の571人泊から15.2%減少し484人泊となったため、目標を達成することはできなかった。</p> <p>前年度に引続き、新型コロナウイルス感染症の影響で、受付後のキャンセル等も多くあった。</p> <p>令和4年度(7月末現在)の状況は2,000人泊を超え上向き傾向であるため、施設における感染症対策を徹底することにより、コロナ禍にあっても利用者に安心・安全の合宿環境が提供できるよう施設管理者と連携して取り組むことにより、目標を達成したい。</p>
新たな目標の考え方	—

② 事業に取り組んだことで得られたノウハウや今後の方針(成果又は反省から得られた情報や知識など)

ノウハウの内容・目標達成に向けた今後の活用方針

部活動やサークル活動を行う団体では、コロナ禍にあっても定期的に合宿や大きな大会を事業計画に盛り込んでおり、潜在的な需要はあると考えられる。
しかし、学校や上位団体からの活動自粛要請に従うケースが多いことから、施設での感染防止対策を図り、安心・安全をアピールすることが重要である。
引き続き、受入れ施設での感染防止対策を徹底し、合宿中の安全確保を図りながら、ウイズコロナやアフターコロナの利用者獲得に向けた周知に努める。

③ 前年度の内部評価・外部評価の事業への反映

④ 事業成果

宿泊体験や食事の提供を通して、本町の自然環境や町内産の食材などをPRすることができた。
新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、スポーツ大会の中止や活動自粛が相次いたが、社会体育施設の利用者は前年度よりも増加(819人→1,109人)したことから、今後のスポーツ・教育合宿利用増に期待したい。

内部評価結果

・前年度に引続き、新型コロナウイルス感染症の影響によるキャンセル等も多く、実績が目標値を下回っているが、社会体育施設の利用者は前年度よりも増加しており、令和4年度以降の状況改善を見据えてKPIは維持する。
・施設や支援制度はもとより町の魅力自体を積極的にPRしていくことが重要

第2次おおい町未来創生戦略 事業内部評価シート

整理番号	3-⑦	課名	住民窓口課
------	-----	----	-------

戦略分類	3. 若者活力		
取組の方向	本町の特性を活かした体験・交流の充実		
戦略事業名	⑦若者出会い交流応援事業		
予算事業名	若者出会い交流応援事業		
令和3年度実績額	120,057円	令和4年度予算額(6月補正後)	905,000円

	令和2年度	令和3年度	令和4年度(予定)
事業の概要(実績)	<p>出会い交流事業の一環として 頭巾山青少年旅行村にオープンしたグランドゴルフ場で、男女グループに分かれて競技を行った後、よざえもんcaféで食事をしながらの交流会を行った。(男性8名・女性8名参加)</p> <p>民間で開催するカップリング交流パーティーの開催にあたり、事業費の一部を補助(1回目:男性8名・女性8名参加)(2回目:男性9名・女性9名参加)</p>	<p>結婚セミナーを実施した後、人気芸人が代表選手となって話題となったニュースポーツの(モルック)を実施した。その後、メンバーを入れ替えフリートークを行い交流を図った。</p> <p>民間での開催はR3年度はできなかった。</p>	<p>きのこの森にて陶芸を行い、参加者の話題作り及び交流を図る。昼食は、BBQを行いより参加者間の交流を深める。</p> <p>民間で開催するカップリング交流会に対し、開催費の一部を助成する。</p>

評価(Check)

成果を測る指標(KPI・数値目標)	参加者数			現 状		KPI達成率(%)
	基準値(平成30年度)	累計127人		令和3年度末	207	
	目標値(令和6年度末)	累計340人	⇒			60.9

① 数値目標達成状況 現状では達成が難しい

達成状況の要因分析	<p>行政主体の事業と、民間団体等による魅力的な企画立案事業を組合せ取り組んできたが、参加人数が伸び悩んだことが大きな要因であると考えられる。令和2年度は補助金申請団体があつたが、行政主体の事業においてコロナ感染拡大防止の観点から、当初2回開催予定のイベントが1回しか開催することができなかったため、事業規模が縮小してしまった。またR3年度は民間での開催ができなかった。</p> <p>今後も、事業に参加したくなるような魅力的な企画に努めるとともに、コロナ感染対策を十分に行ったうえでのイベントの開催を模索、また補助金申請団体のさらなる掘り起こしに取り組み実績確保に努めていく。</p>
新たな目標の考え方	—

② 事業に取り組んだことで得られたノウハウや今後の方針(成果又は反省から得られた情報や知識など)

ノウハウの内容・目標達成に向けた今後の活用方針

行政主体事業のみでは、参加対象や交流場所が町内等狭域に限定されてしまうことで、どうしても敬遠されがちな傾向となるため、より広域的な男女の出会いの場を提供していただく観点から、民間団体への補助事業を新たに創設した。
また、平成28年度に「おおい町若者出会い・交流応援事業実施要綱」を策定し、1事業につき30万円を上限額として、若者の出会いの場を積極的に創出するイベントの実施団体に対する補助事業を実施。

③ 前年度の内部評価・外部評価の事業への反映

人気芸人が代表選手となって話題となったニュースポーツの(モルック)を実施することで、若者が参加したくなるような交流会を企画した。

④ 事業成果

結婚セミナーを実施した後、ニュースポーツの(モルック)を実施し、その後にメンバーを入れ替えフリートークを行い交流を図った。イベント終了後、カップルが1組成立している。

内部評価結果

令和3年度は、民間で開催するカップリング交流パーティーが開催できなかった等の影響により実績が目標値を下回っている。アフターコロナに向けてKPIは維持するとともに、感染症対策を考慮したイベントの開催形式を模索しながら、魅力的なイベントを企画するなど参加人数を増やすための取組が重要

第2次おおい町未来創生戦略 事業内部評価シート

整理番号	3-⑧	課名	まちづくり課
------	-----	----	--------

戦略分類	3. 若者活力		
取組の方向	特色ある地域づくりの推進		
戦略事業名	⑧まちづくり団体・集落ぐるみチャレンジ応援事業		
予算事業名	まちづくり団体支援事業		
令和3年度実績額	1,766,770円	令和4年度予算額(6月補正後)	3,002,000円

	令和2年度	令和3年度	令和4年度(予定)
事業の概要(実績)	<p>平成29年度から本格的なまちづくり活動に繋げるための入り口として、①「まちづくりチャレンジ事業」を制度化。 平成23年度にスタートした②「元気なまちづくり支援事業」については、既存団体の支援が終わり次第廃止することが決定しているが、令和2年度から新たに③「まちづくり支援採択事業」を制度化し、「元気なまちづくり支援事業」からの移行も可能とした。</p> <p>【実績】 まちづくりチャレンジ…1団体(新規) まちづくり支援採択…1団体(元気なまちづくり支援事業より移行) ※元気なまちづくり支援事業を活用している4団体は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、活動を中止した。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響を受け、一部の団体の活動が中止となったが、ウィズコロナに対応して活動内容を変更するなど、事業実施団体のなかで創意工夫がみられた。</p> <p>【実績 事業実施団体数(採択数)】</p> <p>①元気なまちづくり支援事業 …4団体(4団体) ②まちづくりチャレンジ事業 …1団体(2団体) ③まちづくり支援採択事業 …1団体(4団体)</p>	<p>住民が主体的となり創意工夫を凝らしたまちづくりにチャレンジする団体を下記の補助制度にて積極的に支援する。</p> <p>【R4実施予定団体数/予算】</p> <p>①元気なまちづくり支援事業 4団体/1,200千円 ②まちづくりチャレンジ事業 3団体/300千円 ③まちづくり支援採択事業 5団体/1,500千円</p>



ランタンナイト in うみんびあ大飯マリーナ



チョコマシュほほえみビート

評価(Check)

成果を測る指標(KPI・数値目標)	活動団体数			現 状		KPI達成率(%)
	基準値(平成30年度)	累計10団体		令和3年度末	12団体	
	目標値(令和6年度末)	累計15団体	⇒			80.0

① 数値目標達成状況	おおむね達成
達成状況の要因分析	<p>これまでに意欲のある団体が積極的に制度を利用できるよう、補助事業の見直しを行いながら周知を図ってきたことから、累計数としてはおおむねKPIを達成している状況である。 令和3年度は新型コロナの影響を受け、一部の団体が活動を中止したが、まちづくりチャレンジ事業を活用して、新たに1件のまちづくり団体の支援を行い、地域の活性化に寄与することができた。</p>
新たな目標の考え方	—

② 事業に取り組んだことで得られたノウハウや今後の方針(成果又は反省から得られた情報や知識など)	
ノウハウの内容・目標達成に向けた今後の活用方針	コロナ禍という特殊な状況の中、感染症対策を講じてのイベント実施や、リモートでの講演会開催など、支援制度を活用するなかでも、事業展開に工夫がみられた。 活動を実施できた団体の事例や、感染症対策の事例を共有しつつ、既存団体の活動の活性化や新たにまちづくりにチャレンジできる環境を醸成できるよう、金銭的な部分以外においてもサポートを行っていく。
③ 前年度の内部評価・外部評価の事業への反映	
支援団体と情報共有をしつつ、コロナ禍においても活動が実施できるようサポートを行った。	
④ 事業成果	
まちづくり団体支援事業補助金は、活動人口、交流人口、定住人口の活性化を目的とした町民主体のまちづくり活動に対する支援制度である。現時点で3つの補助制度を設けているが、これまでに補助制度自体の見直しも行いつつ、住民がよりチャレンジしやすい環境を醸成してきた。 令和3年度は、採択した10団体のうち6団体(新規1件)が活動を実施し、コロナ禍においても町民活動の活性化に寄与することができている。	
内部評価結果	
事業のPRや状況に応じた制度の見直しを図った結果、KPIの達成に向けて順調。コロナ禍においても活動ができるように各団体をサポートしていくことが重要	

第2次おい町未来創生戦略 事業内部評価シート

整理番号	3-⑧	課名	まちづくり課
------	-----	----	--------

戦略分類	3. 若者活力		
取組の方向	特色ある地域づくりの推進		
戦略事業名	⑧まちづくり団体・集落ぐるみチャレンジ応援事業		
予算事業名	おい町集落ぐるみ町民指標活動支援事業(チャレンジ事業分)		
令和3年度実績額	300,000円	令和4年度予算額(6月補正後)	1,000,000円

	令和2年度	令和3年度	令和4年度(予定)
事業の概要 (実績)	<p>「芝桜植栽運動と情報発信のためのオリジナルカレンダーの作成(野尻区)」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芝桜植栽運動はコロナ禍を配慮し、2日間に分けて実施し65名が参加。 ・今回の事業では若い初参加の方が多く、地区活動に対しての理解を深めてもらうことができた。 ・ふるさとカレンダー作成では、子供会、青年団、壮年団の伝統行事や、活動記録を中心に作成。地区外居住者(地区出身者)にも配布。 	<p>①「区入口休耕田を積極的に利用したコスモスの栽培(野尻区)」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休耕田にコスモスを栽培し、野尻の新しい観賞スポットを作った。 <p>②「虫送り・松明行事映像記録活動(岡田区)」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統行事である虫送り・松明の行事を映像に記録し、活性化・継承に繋げた。 <p>③「バスステーション周辺景観整備事業(河村区)」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バスステーション脇の簡易的な花壇をレンガ花壇へと進化させ、交流促進、区民の連帯感醸成を図った。 	応募案件なし
	 <p>河村区: 景観整備</p>	 <p>岡田区: DVD制作</p>	 <p>野尻区: コスモス栽培</p>

評価(Check)

成果を測る指標 (KPI・数値目標)	チャレンジ件数			現 状		KPI達成率 (%)
	基準値 (平成30年度)	累計13件		令和3年度末	累計18件	
	目標値 (令和6年度末)	累計35件	⇒			51.4

① 数値目標達成状況		現状では達成が難しい
達成状況の要因分析	新型コロナウイルス感染症や世情などの影響により、参加集落が落ち込んでいると考えられるが、令和2年度より影響がやや弱くなったと推測されるため、令和3年度は参加集落数3件と上昇した。	
新たな目標の考え方	—	

② 事業に取組んだことで得られたノウハウや今後の方針(成果又は反省から得られた情報や知識など)

ノウハウの内容
・目標達成に
向けた今後の活
用方針

参加区を増やすために各区の予算編成時期に合わせて、周知期間を前倒しにし広く募集を求める。

③ 前年度の内部評価・外部評価の事業への反映

④ 事業成果

新型コロナウイルス感染の終息が見通せないが、多少落ち着いてきたこともあり令和3年度の参加集落は3件に増加した。幅広い年代が参加できるような取り組みを行っており、区の活性化やコミュニケーションの促進につながったと考えられる。

内部評価結果

・新型コロナウイルス感染拡大の影響で、参加集落数が想定よりも伸び悩んでおり目標達成に向けて厳しい状況であるが、町の活性化につながる重要な取り組みであり、状況が改善するものと考えKPIは維持する
・応募しやすい枠組みを検討するとともに、これまでチャレンジ事業に参加したことがない集落に対して積極的に呼び掛けていく必要がある